

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1218		
科目名	自主創造の基礎		
担当教員	古谷 洋一		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 2		
講義室	1315	単位区分	必
授業形態	全学統一科目	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	リテラシー		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2-A 「日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢」地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP2-B 「自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢」自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP4-F 「探究力・課題解決力」問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K 「表現力・対話力」文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A2（10%）異文化適応 B1（30%）自己啓発 C1（5%）倫理的思考・社会認識 F1（10%）探究と論拠 H1・H2（10%）論理的思考・批判的思考 K1・K2（30%）ライティングコミュニケーション・オーラルコミュニケーション M1（5%）統合的・応用的学修		
教員の実務経験	—		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 2. 進期期 ～ 3. 発展期		
科目概要・キーワード	日本大学において全学的に導入した初年次教育科目です。様々な動機・目的をもって入学した新生に対し、学部・学科に関わらず、本学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを涵養することを目的とします。当科目では、〔T A R G E T 1〕日大生としてのアイデンティティ、〔T A R G E T 2〕コミュニケーションとインクルージョン、〔T A R G E T 3〕論理的・批判的思考とアウトプット、3点をターゲットとして定め、それぞれの単元が有機的に連携しながら体系的な学修を進めていきます。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピデンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード: 初年次教育、日本大学、コミュニケーション、インクルージョン、ディスカッション、学部間交流、論理的・批判的思考、プレゼンテーション		

授業の趣旨	■副題 日本大学危機管理学部で学ぶためのスキルとマインドを獲得します ■授業の目的 当科目では、日本大学で学ぶにあたり、大学入学時までの受動的な学習からの転換を図り、「自ら考え、行動し、創り上げる」大学生としての能動的な学修ができることを目的としています。危機管理学部においては、「危機管理パーソン」を涵養するために必要となるスキル（文献収集の方法、文章や報告のまとめ方）、態度（自己と他者の理解）と能動的学修のために必要となるマインド（日本大学精神・将来のキャリアへの理解）の獲得を目的としています。なお、当科目では、「日本大学教育憲章ルーブリック」における「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」「論理的・批判的思考力」「問題発見・解決力」「挑戦力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ・協働力」「省察力」の初年領域：Basic 1を修得します。 ■授業のポイント 大学で学ぶことはということなのか、その意義を理解し、大学生として自ら学ぶマインドを醸成します。また、本学部では自主創造型パーソンを「危機管理パーソン」ととらえて、危機管理で学ぶために必要となるスキルを獲得をして、大学での豊かな学びを出来るための基礎的な力を養成することを目的として授業を行います。	
総合到達目標	■学部・学科に関わらず、本学の学生として共通して身に付けるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを身に付ける ・日本大学についてさまざまな角度から概観することで、本学で学ぶ意味や意義について、説明することができる ・所属学部・学科の特色を理解し、在学中の目標設定し、学びの意識を高めることができる ■多様な存在を認め、それぞれの価値観を尊重しながら他者と関わり合うことで、自身の立ち位置を相対的に理解する ・さまざまなコミュニケーションの在り方や特徴を説明することができる ・自身の考えを適切に伝達することができる ・他者の意見に傾聴することができる ・多様な存在や価値観を受容し、尊重しながら、協働することができる ■自ら設定した課題について論理的かつ批判的に検討を行いながら、自身の考えを伝える力を身に付ける ・グループまたは個人でテーマを設定することができる ・他者の意見を尊重しながら多角的かつ批判的に自身の考えを見直す伝えることができる ・ワークでの検討結果を論理的に構成し、他者へ説明することができる ・他者の成果物に対して、自身の考えを示すことができる	
成績評価方法	■授業参加度15回（90%） 適用ルーブリック: A2(10%)、B1(30%)、C1(5%)、F1(10%)、H1・H2(10%)、K1・K2(30%)、M1(5%) （評価の観点）各授業回で実施する「振り返りシート」15回、およびグループワーク・面談への参加度について、各評価基準用のルーブリックに基づき評価します。 （フィードバックの方法）各提出物については次回授業時に全体講評を行うとともに、必要に応じて学期末までに個別にフィードバックを行います。 ■プレゼンテーション評価1回（10%） 適用ルーブリック: A2(10%)、B1(30%)、C1(5%)、F1(10%)、H1・H2(10%)、K1・K2(30%)、M1(5%) （評価の観点）プレゼンテーションの内容と形式について、PPTに関するルーブリックに基づき評価します。 （フィードバックの方法）報告会を実施し、その際に教員による講評を行うことで、フィードバックを行います。	
履修条件	必修のため、特にありません。	
履修上の注意点	少人数の演習科目のため、毎回出席して積極的に授業参加することが求められます。遅刻・欠席はグループ学修などの授業進行や他の受講生の学修の妨げにもなりますので慎むとともに、やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡するようにしてください。連絡方法など詳細は初回ガイダンスで説明があります。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ スタートアップ ②授業概要 科目の意味や意義、位置づけについて要点をとらえることができる(B1、C1、K1、M1)。大学生としての学びの在り方について理解し、説明することができる(B1、C1、K1、M1)。 ③予習(120分) 学部要覧の履修方法や卒業要件に関するページを熟読する。教科書『ミライツクル〜Learning Guide〜』を一読してくる。 ④復習(120分) 大学生としての「学修」と「日本大学教育憲章」について理解を深める。履修中の科目（及び履修予定の科目）のシラバスを読み、各科目の目的や位置づけについて確認した上で、適切に履修登録が行われているかを確認する。

2	①授業テーマ 日本大学を知る① ②授業概要 本学への入学動機と意義について、自分の将来のキャリアとの関連から説明できる (B1、C1、K1、M1)。また、当科目で学修するアカデミックスキルとその意義について説明できる(B1、F1、H1、K1)。 ③予習(120分) 入学前に抱いていた本学のイメージや本学を受験した理由について整理する。また、当科目も含めて前期履修科目(予定含む)のシラバスを精読し、各科目で自分が何を修得したいかについて考えをまとめる。 ④復習(120分) 授業で作成した成果物を見直し、学修計画全体として整合性についても確認し、適宜修正整する。また、この学修計画に沿って各履修科目で自分が何を学ぶべきかについて明確にした上で各科目のシラバスやガイダンス内容を再度確認する。
3	①授業テーマ ノートテイキング ②授業概要 講義での学びを効果的・効率的に進めるためにノートテイキングが重要であることについて説明できる (F1、H1、K1)。また、自分と他者のノート比較等を通じて、「良いノートを作る方法」についての自分の考えを述べるができる (A2、B1、K1、M1)。 ③予習(120分) 教科書P.33-35を読み、重要と思う点をノートにまとめる。また、高校時代のノートと大学入学後の各科目のノートを見直し、高校と大学の授業ノートの差異や、自分のノートテイキングの工夫についてノートにメモしてくる。 ④復習(120分) 授業内容に基づいてノートテイキングの目的と留意点について再度整理し、今後のノートテイキングにどう反映するか具体的な方略をまとめる。
4	①授業テーマ 危機管理学部を知る① ②授業概要 学部の特徴を理解し、説明することができる (F1、K1)。学部の施設・設備とその利用方法を理解することができる (F1、H1、K1)。 ③予習(120分) 三軒茶屋キャンパスにはどのような施設・設備があるかについて、インターネット等で情報を収集する。フィールドワークを行う施設・設備について下調べを行い、円滑に見学や利用が行えるよう準備する。 ④復習(120分) 三軒茶屋キャンパス図書館の利用案内を一読するとともに、事前に一度入館して設備や書架を見学し、気づいたことを書きだす (図書館利用に際しては利用ルール・マナーを守るとともに、混雑を避けるためグループでは行かないよう注意してください)。
5	①授業テーマ 危機管理学部を知る② ②授業概要 三軒茶屋キャンパスの学生同士で、多様な考えや個性を認めながら協働ワークを行うことができる (A2、B1、C1、F1、H1・H2、K1・K2、M1)。 ③予習(120分) 事前の案内・指示に沿って必要な準備を行う。 ④復習(120分) 授業での交流内容を振り返り、当学部・当キャンパスで自分が学修する意義を整理する。指示された課題に沿ってSDシートを作成して提出する。
6	①授業テーマ 日本大学を知る② ②授業概要 本学の総合大学としてのメリットを理解し、説明することができる (A2、C1、F1、K1)。在学中の大きな目標を設定することができる (B1、C1、F1、K1、M1)。 ③予習(120分) 指定された事前学修動画から1つを選択して視聴し、自身の考えをまとめる。 ④復習(120分) 選択しなかった事前学修動画を視聴し、あらためて本学の総合大学としてのスケールメリットについて考える。授業で作成した「在学中の目標設定」を達成するための具体的な方法を考える。
7	①授業テーマ コミュニケーション・スキルの錬成 ②授業概要 KJ法による協働ワークを通して、複数の学生の考えを集約することができる (A2、B1、H1・H2、K1・K2)。グループでの議論を通して、自身の考えを深めることができる (A2、B1、H1・H2、K1・K2)。 ③予習(120分) 所属する学部・学科に関する情報を多角的に収集する。授業動画「オンラインツールの使用方法」を視聴し、円滑に使用できるようにする。 ④復習(120分) 授業内で決めた5つのキーワードについて、あらためてインターネット等で情報を収集し、所属学部・学科以外の学生に説明できるようにする。議論にあたって用いた手法やツールについて理解を深め、今後のディスカッションで活用できるようにする。
8	①授業テーマ ワールド・カフェ (N-MIX) ① ②授業概要 学部を越えた交流を通して、本学のスケールメリットをあらためて認識することができる (A2、B1、F1、K1)。複数の学部や学系が共存するグループで、多様な考えを認めながら協働ワークを行うことができる。協働ワークの成果をまとめ、伝えることができる (A2、B1、C1、F1、H1・H2、K1・K2、M1)。 ③予習(120分) ワールド・カフェの趣旨を理解し、協働ワークに資するオンラインツールを円滑に使用できるようにする。自身の所属以外で本学にどのような学部・学科があ

	るかについて、あらためて確認する。 ④復習(120分) ワールド・カフェを通じて得られた経験を整理し、今後の協働ワークの進め方について考えをまとめる。指示された課題に沿ってレポートを作成して提出する。
9	①授業テーマ ワールド・カフェ (N-MIX) ② ②授業概要 学部を越えた交流を通して、本学のスケールメリットをあらためて認識することができる (A2、B1、F1、K1)。複数の学部や学系が共存するグループで、多様な考えを認めながら協働ワークを行うことができる。協働ワークの成果をまとめ、伝えることができる (A2、B1、C1、F1、H1・H2、K1・K2、M1)。 ③予習(120分) ワールド・カフェの趣旨を理解し、協働ワークに資するオンラインツールを円滑に使用できるようにする。自身の所属以外で本学にどのような学部・学科があるかについて、あらためて確認する。 ④復習(120分) ワールド・カフェを通じて得られた経験を整理し、今後の協働ワークの進め方について考えをまとめる。指示された課題に沿ってレポートを作成して提出する。
10	①授業テーマ 論理的・批判的思考の錬成① ②授業概要 プレゼンテーションの目的や手法について理解し、説明することができる (F1、H1・H2、K1)。プレゼンテーションの構成や作成のステップについて理解し、説明することができる (F1、H1・H2、K1)。グループでの議論を通して、テーマを決定することができる (A2、C1、F1、H1・H2、K1・K2)。 ③予習(120分) ワールド・カフェでの学びの経験や感想について、他者に伝えられるよう整理する。プレゼンテーションの方法について下調べを行う。 ④復習(120分) プレゼンテーションの作成手順について確認する。グループで決定したテーマについて、取り上げたい具体的な内容を考えるとともに、関連事項について調べる。
11	①授業テーマ 論理的・批判的思考の錬成② ②授業概要 資料や先行研究を調べ、得られた情報を整理することができる (C1、F1、H1・H2、K1)。正しい引用の方法について理解し、説明することができる (C1、F1、H1・H2、K1)。グループでの議論を通して、章立てを行うことができる (A2、F1、H1・H2、K1・K2)。 ③予習(120分) 授業動画「盗用・剽竊への注意」をあらためて視聴する。前回の事後学修で調べた内容について、他者に説明できるよう整理する。 ④復習(120分) 他者の意見を引用する際の作法についてあらためて確認する。議論にあたって不足している情報について、オンライン検索システム等を利用して適切に収集し整理する。
12	①授業テーマ 検討結果のアウトプット① ②授業概要 聴き手に「見やすい」提示資料の技巧について理解し、説明することができる (H1・H2、K1・K2)。章立てに沿って提示資料を作成することができる (H1・H2、K1・K2)。 ③予習(120分) 前回の事後学修で調べた内容について、他者に説明できるよう整理する。プレゼンテーションの提示資料をより見やすくするための工夫について、下調べを行う。 ④復習(120分) 作成した提示資料を客観的に見直し、不足している情報を追加する。提示資料のフォーマットについて、問題点や改善点がないか確認する。
13	①授業テーマ 検討結果のアウトプット② ②授業概要 聴き手に「分かりやすい」発表の技術について理解し、説明することができる (H1・H2、K1・K2)。模擬発表の実践を通して、提示資料や発表方法について改善を行うことができる (H1・H2、K1・K2)。 ③予習(120分) 前回の事後学修で追加作成した新たな項目を含め、グループ全員の提示資料を統合する。発表者の割り当てに従って、模擬発表に向けた準備を行う。聴き手がより理解しやすい発表を行うための工夫について下調べを行う。 ④復習(120分) プレゼンターの技術について理解を深めながら、発表練習を行う。作成した提示資料を客観的に見直し、情報の追加や削除、修正を行う。自グループのプレゼンテーション全体について、「見やすさ」「わかりやすさ」の観点から再検証し、適宜修正や調整を行う。
14	①授業テーマ 検討結果のアウトプット③ ②授業概要 グループによるプレゼンテーションを行うことができる (H1・H2、K2)。他グループのプレゼンテーションを評価することができる (A2、H1・H2、K1・K2)。他グループとの比較を通して、自グループの改善点を見出すことができる (A1、B1、M1)。各グループのプレゼンテーションに対して教員が講評を行います。 ③予習(120分) 前回の事後学修で追加や削除、修正を行った項を含め、グループ全員の提示資料を統合し、確認する。前回の事後学修で行ったプレゼンテーション全体の修正

	や調整をグループ全員で確認し、発表練習を行う。 ④復習(120分) 他グループの発表に関する評価や担当教員の講評を参照しながら、自グループの具体的な改善点についてあらためて考える。
15	①授業テーマ 総括・振り返り ②授業概要 本科目における自身の学びを客観的に振り返り、各到達目標についての自己評価を行うことができる。本科目における達成状況を参照しながら、後学期に向けた具体的な目標を設定することができる(B1、K1・K2、M1)。なお、ここまでの振り返りシート等の提出物について、教員が全体講評によりフィードバックを行います。 ③予習(120分) 当科目の授業資料やノートを再度全体的に読み直し、科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度について説明できるよう準備する。また、到達度が充分でないと感じる部分がある場合は、再度教科書や授業資料をまとめ直し、不明な点を質問できるようにする。 ④復習(120分) 授業総括および提出物のフィードバック等を振り返り、到達度に関する自分の考えを再検証する。また「学修ポートフォリオ」に基づいて当科目や他の履修科目の学修を評価する。
関連科目	「アカデミック・スキルズ」(RMGT1219)
教科書	『ミライツクル Learning Guide』(日本大学FD推進センター, 2020) https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fdguidebook/learningguide/
参考書・参考URL	『日本大学危機管理学部 学部要覧』、『三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル (SLIM)』、そのほか各授業回にて必要に応じて案内します。
連絡先・オフィスアワー	第1回授業で案内します。
研究比率	

